

芸術科 書道Ⅱ 授業シラバス

教科	科目名	単位数	学年	学級
芸術科	書道	2	2 学年	1～4

1 学習目標

学習の到達目標	・表現と鑑賞を有機的に関連させて展開される書道の創造的な諸活動をととして書を愛好する心情を育てるとともに感性をさらに高めていく。 ・書の文化や伝統について理論的な側面を含めて理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばしていく。		
使用教科書・副読本等	東京書籍 「書道Ⅱ」	学習形態	2 クラス 3 展開

2 学習計画

<評価の観点> 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解

学期	月	学習項目	学習内容	考查等
1 学期	4	一 篆書の学習	篆書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置づけを理解します。 泰山刻石の鑑賞と臨書をととして、篆書（小篆）の特徴を理解し基本的な用筆・運筆、結構を習得します。 召尊の鑑賞と臨書をととして、金文の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。	前期中間考查
	5	二 篆刻・刻字の学習	学習した古典の表現を生かし、篆書の作品を創作します。 作品に対する効果を考え、姓名印を刻り、押印します。	
	6	三 隸書の学習	隸書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置づけを理解します。 乙瑛碑の鑑賞と臨書を通して隸書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解します。 漢代木簡の鑑賞と臨書をととして木簡の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。	前期期末考查
	7	隸書による創作と作品の鑑賞	これまでに学習した古典の表現を生かして隸書の作品を創作します。	
2 学期	9	四 草書の学習	草書の成立と歴史的な位置づけを理解します。 基本的な草書の学習により、草書の特徴を把握します。 書譜、十七帖の鑑賞と臨書をととして草書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、両古典の比較により、それぞれの特徴を把握し草書による表現の多様性理解します。 書道Ⅰの学習を基に、行書に対する興味・関心をふかめ歴史的な位置づけを理解します。 さまざまな行書の書風を鑑賞し、行書の表現の多様性理解します。	10 月 実力 考查
		五 行書の学習	集王聖教序・祭姪稿・枯樹賦の臨書をととしてその表現方法を習得します。 草書または行書の表現を生かし、自から題材を選んで創作を行います。	
	10	六 楷書の学習	書道Ⅰにおける学習を基に楷書の多様な表現に触れ、自から個性を生かす古典を選択して学習を深めます。 学習した古典の表現を生かし、題材や形式を選択して創作を行い相互に鑑賞批評を行います。	
	11	七 仮名の書の学習	書道Ⅰの学習を基に、仮名の種類、特に変体仮名の種類について学習し、理解を深めます。	後期中間考查
	12	仮名の書の臨書（主として高野切第一種）や鑑賞をととして表現技法を習得し、短冊や散らし書き等の形式についても理解を深めます。		

3 学期	1	6 小字による表現 7 大字による表現と作品の特徴	2 学期の学習を基に仮名の書による創作を、題材や形式を選択して行います。	1 月 実力 考查
	2	八 漢字仮名交じりの書の学習 1 さまざまな表現 2 古名跡に学ぶ表現の工夫	詩文、形式、用具・用材、構成などを工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性を表現する最良の方法を模索します。	学期末 考查
	3	3 創作/さまざまな表現の工夫	これまでの漢字及び仮名の学習を基に漢字仮名交じりの書の創作を行います。	

【年間の評価】

- ・平常点（授業への取り組み・出席・授業態度・課題の提出状況等）を5割とする。
- ・作品提出物の素点を4割とする。
- ・プリントの素点を1割とする。

学習アドバイス

- ・自らの感性に基づき作品や古典の書美について直観的な把握を試み用具・用材・構成、また作者や「時代背景といった様々な要素について考え、分析する姿勢で試みたい。
- ・技法の習得においては自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習する習慣を身につけたい。
- ・創作においては詩文や用具・表現形式などについてより効果的なものを積極的に選択したい。

